



町内で商店を経営しながら、当別消防団員として活動をし、多くの火災や水害の発生時に出勤して来ました。6月1日から新団長の任に就き、町を災害から守ります。

地域を守る 地域の方

当別消防団
団長 青井 国夫 さん
(園 生)

永年の消防団活動を 振りかえって

昭和 35 年に消防団に入ってから、今年で 49 年目になります。周りの商店街の方に誘われたことがきっかけです。

現在は商店街の中で活動をしているのは私だけですが、入団した頃は商店街にも多くの団員がいたので、地域の消防団員が自分たちでまちを守っていると、ごく普通に考えていましたね。

当時は、現在のように設備が整っておらず、ドアが無い消防車に乗って青山まで走ったり、冬季の消火作業の際、水を浴びてガチガチに凍りついた刺し子の消防着で活動したり、消火中に一度放水をストップしたら、ホースが凍りついたりなど、苦労した思い出が多い一方、出初め式で、消防団員が町内のあちこちで梯子乗りを披露する時には大勢が観覧に来るように、活気がありましたね。

課題は人材育成と 地域との関わり方

消防団は、消防署員と異なる職業の一般町民が、災害発生時に、火災の消火活動や、地震、水害時の救助活動や行方不明者捜索の活動などを行なう組織です。

災害予防にも取り組み、女性消防団は高齢者宅を訪問して防火啓発を続けていますが、このような様々な活動を継続して行く上で直面する課題は後継者問題で、現在は地域によっては団員の成り手が見つからず、定員 170 名のところ欠員が生じています。

例えば、町内の学生たちに呼びかけ、救命講習会や防火啓発運動など、気軽に参加できる事業へ、個人が出来る範囲で参加することによって、団員との交流の中で、まちに係わりを持つことが出来るのではないのでしょうか。

地域との係わり、ボランティアといったことを学ぶことは、学生

たちが自分の地元に戻った際に、地域に伝えることで活動の輪が広がって行くと思います。

災害の無いまちを 目指して

何といたっても、無火災、予防が第一目標です。

しかし、年間約 10 件の火災が発生している現実問題としては、万が一火災が発生した場合、被害を最小限で食い止めるための準備も必要です。

そのために、情報の収集・発信や、機械操作方法の習得などの、訓練に励みたいと考えています。そして、私たちがこれまでに先輩たちから教えられた災害現場での経験、技術、心構えを、これからの消防団を担う人材に受け継いで行ければ良いと思います。



訓練の様